

## 平成31年度 九州工業大学2次試験前期日程(数学問題)

工学部・情報工学部 平成31年2月25日

数I・II・III・A・B(120分)

## 問題 1 2 3 4

1  $k$  を正の実数とする. 原点を  $O$ , 曲線  $C : y = \frac{1}{x} (x > 0)$  と直線  $y = kx$  の交点を  $P$ , 線分  $OP$  の中点を  $Q$  とする. さらに, 点  $Q$  を通り  $y$  軸と平行な直線と  $C$  の交点を  $R$ , 点  $Q$  を通り  $x$  軸と平行な直線と  $C$  の交点を  $S$  とする. 次に答えよ.

- (1) 点  $P$  の座標を  $k$  を用いて表せ.
- (2) 点  $P$  における曲線  $C$  の接線と直線  $RS$  は平行であることを示せ.
- (3) 直線  $RS$  と曲線  $C$  で囲まれた図形の面積は  $k$  の値によらず一定になることを示せ.
- (4) 直線  $RS$  と曲線  $C$  で囲まれた図形を  $x$  軸のまわりに1回転してできる立体の体積を  $k$  を用いて表せ.

2  $n$  を自然数とする.  $f(x)$  と  $S_n$  を次のように定める.

$$f(x) = x + \sqrt{x^2 + 1}$$

$$S_n = \sum_{k=1}^n \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}}$$

次に答えよ.

- (1)  $\frac{f'(x)}{f(x)}$  を求めよ.
- (2) 定積分  $\int_1^{n+1} \frac{1}{\sqrt{x^2 + 1}} dx$  を計算せよ.
- (3) 数列  $\{S_n\}$  は発散することを示せ. ただし, 自然数  $k$  に対して,  $k \leq x$  のとき,  $\sqrt{k^2 + 1} \leq \sqrt{x^2 + 1}$  が成り立つことを用いてよい.
- (4)  $\lim_{n \rightarrow \infty} (S_{2n} - S_n)$  を求めよ. ただし, 自然数  $k$  に対して,  $k-1 \leq x \leq k$  のとき,  $\sqrt{x^2 + 1} \leq \sqrt{k^2 + 1} \leq \sqrt{(x+1)^2 + 1}$  が成り立つことを用いてよい.

3  $a$  を正の実数とし、複素数平面上の4点  $O(0)$ ,  $A(6+4i)$ ,  $B(8-2i)$ ,  $C(-2ai)$  を4頂点とする四角形  $OABC$  を考える. 四角形  $OABC$  の各辺を1辺とする4つの正方形を四角形  $OABC$  の外側に作る. 正方形において, 2本の対角線の交点をその正方形の重心という. 辺  $OA$  を1辺とする正方形の重心を  $P$ , 辺  $AB$  を1辺とする正方形の重心を  $Q$ , 辺  $BC$  を1辺とする正方形の重心を  $R$ , 辺  $CO$  を1辺とする正方形の重心を  $S$  とする. 次に答えよ.

- (1) 原点を中心として, 点  $A$  を反時計回りに  $90$  度回転させて得られる点を表す複素数を求めよ.
- (2) 点  $P$  および点  $Q$  を表す複素数をそれぞれ求めよ. また, 点  $R$  および点  $S$  を表す複素数をそれぞれ  $a$  を用いて表せ.
- (3) 線分  $QS$  の長さを  $a$  を用いて表せ.
- (4) 線分  $PR$  と線分  $QS$  の長さの比を求めよ.
- (5) どのような正の実数  $a$  に対しても, 2直線  $PR$ ,  $QS$  は垂直であることを示せ.

4 箱  $A$  と箱  $B$  がある. はじめに, どちらの箱にも白玉2個と黒玉1個が入っている. 次に答えよ.

- (1) 箱  $A$  から無作為に1個の玉を取り出し, 色を確認し, 箱  $A$  に戻す. この試行を3回行うとき, 白玉を2回, 黒玉を1回取り出す確率を求めよ.
- (2) 箱  $A$  と箱  $B$  から無作為に1個ずつ玉を同時に取り出し, 箱  $A$  から取り出した玉を箱  $B$  に, 箱  $B$  から取り出した玉を箱  $A$  に入れる. このとき, 箱  $A$  の中身が白玉1個と黒玉2個である確率  $P_1$ , 箱  $A$  の中身が白玉2個と黒玉1個である確率  $P_2$ , 箱  $A$  の中身が白玉3個である確率  $P_3$  をそれぞれ求めよ.
- (3) (2) の試行を2回続けて行う. すなわち, (2) の試行を行い, 箱の中身をそのままにして, (2) の試行をもう1回行う. このとき, 1回目で箱  $A$  の中身が白玉3個になり, かつ2回目で箱  $A$  の中身が白玉2個と黒玉1個になる確率を求めよ.
- (4) (2) の試行を2回続けて行う. このとき, 箱  $A$  の中身が白玉2個と黒玉1個である確率を求めよ.
- (5) (2) の試行を2回続けて行ったとき, 箱  $A$  の中身が白玉2個と黒玉1個であった. このとき, 1回目の試行の後で, 箱  $A$  の中身が白玉2個と黒玉1個である条件付き確率を求めよ.

## 解答例

- 1 (1)  $C: y = \frac{1}{x}$  と  $y = kx$  から  $y$  を消去すると

$$\frac{1}{x} = kx \quad \text{ゆえに} \quad x^2 = \frac{1}{k} \quad x > 0 \text{ に注意して} \quad x = \frac{1}{\sqrt{k}}$$

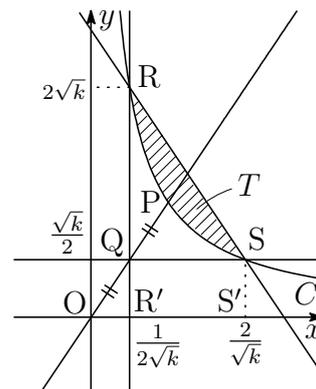
これを  $C$  の方程式に代入して  $y = \sqrt{k}$  よって  $P\left(\frac{1}{\sqrt{k}}, \sqrt{k}\right)$

- (2)  $y = \frac{1}{x}$  を微分すると  $y' = -\frac{1}{x^2}$

点  $P\left(\frac{1}{\sqrt{k}}, \sqrt{k}\right)$  における  $C$  の接線の傾きは

$$y' = -\frac{1}{\left(\frac{1}{\sqrt{k}}\right)^2} = -k \quad \dots \textcircled{1}$$

線分  $OP$  の中点  $Q$  は  $\left(\frac{1}{2\sqrt{k}}, \frac{\sqrt{k}}{2}\right)$



$C$  上の点  $R$  の  $x$  座標が  $\frac{1}{2\sqrt{k}}$ , 点  $S$  の  $y$  座標が  $\frac{\sqrt{k}}{2}$  であるから

$$R\left(\frac{1}{2\sqrt{k}}, 2\sqrt{k}\right), \quad S\left(\frac{2}{\sqrt{k}}, \frac{\sqrt{k}}{2}\right)$$

直線  $RS$  の傾きは  $\frac{\frac{\sqrt{k}}{2} - 2\sqrt{k}}{\frac{2}{\sqrt{k}} - \frac{1}{2\sqrt{k}}} = -k \quad \dots \textcircled{2}$

①, ② より, 点  $P$  における曲線  $C$  の接線と直線  $RS$  は平行である.

- (3) 直線  $RS$  と曲線  $C$  で囲まれた図形の面積を  $T$  とする. 2点  $R, S$  から  $x$  軸にそれぞれ垂線  $RR', SS'$  を下ろし, 台形  $RR'S'S$  の面積を利用すると

$$\begin{aligned} T &= \frac{1}{2} \left( 2\sqrt{k} + \frac{\sqrt{k}}{2} \right) \left( \frac{2}{\sqrt{k}} - \frac{1}{2\sqrt{k}} \right) - \int_{\frac{1}{2\sqrt{k}}}^{\frac{2}{\sqrt{k}}} \frac{dx}{x} \\ &= \frac{1}{2} \cdot \frac{5\sqrt{k}}{2} \cdot \frac{3}{2\sqrt{k}} - \left[ \log x \right]_{\frac{1}{2\sqrt{k}}}^{\frac{2}{\sqrt{k}}} = \frac{15}{8} - 2 \log 2 \end{aligned}$$

したがって,  $T$  は,  $k$  の値によらず一定である.

(4) 直線 RS は点  $\left(\frac{1}{2\sqrt{k}}, 2\sqrt{k}\right)$  を通り、傾き  $-k$  の方程式であるから

$$y - 2\sqrt{k} = -k \left(x - \frac{1}{2\sqrt{k}}\right) \quad \text{すなわち} \quad y = -k \left(x - \frac{5}{2\sqrt{k}}\right)$$

台形 RR'S'S を  $x$  軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積を  $V_1$  とすると

$$\begin{aligned} \frac{V_1}{\pi} &= k^2 \int_{\frac{1}{2\sqrt{k}}}^{\frac{2}{\sqrt{k}}} \left(x - \frac{5}{2\sqrt{k}}\right)^2 dx \\ &= \frac{k^2}{3} \left[ \left(x - \frac{5}{2\sqrt{k}}\right)^3 \right]_{\frac{1}{2\sqrt{k}}}^{\frac{2}{\sqrt{k}}} = \frac{21}{8} \sqrt{k} \end{aligned}$$

曲線  $C$ , 2 直線 RR', SS' および  $x$  軸で囲まれた図形を  $x$  軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積を  $V_2$  とすると

$$\frac{V_2}{\pi} = \int_{\frac{1}{2\sqrt{k}}}^{\frac{2}{\sqrt{k}}} \left(\frac{1}{x}\right)^2 dx = \left[-\frac{1}{x}\right]_{\frac{1}{2\sqrt{k}}}^{\frac{2}{\sqrt{k}}} = \frac{3}{2} \sqrt{k}$$

したがって、求める立体の体積を  $V$  とすると

$$V = V_1 - V_2 = \left(\frac{21}{8} \sqrt{k} - \frac{3}{2} \sqrt{k}\right) \pi = \frac{9}{8} \sqrt{k} \pi$$

**補足** 台形 RR'S'S を  $x$  軸のまわりに 1 回転してできる立体は円錐台である。円錐台の上底の半径  $a$ , 下底の半径  $b$ , 高さ  $h$  について、その体積  $V$  は

$$\begin{aligned} \frac{V}{\pi} &= \int_0^h \left(\frac{b-a}{h}x + a\right)^2 dx = \int_0^h \left\{ \left(\frac{b-a}{h}\right)^2 x^2 + \frac{2a(b-a)}{h}x + a^2 \right\} dx \\ &= \left[ \left(\frac{b-a}{h}\right)^2 \frac{x^3}{3} + \frac{a(b-a)}{h}x^2 + a^2x \right]_0^h \\ &= h \left\{ \frac{1}{3}(b-a)^2 + a(b-a) + a^2 \right\} = \frac{h}{3}(a^2 + ab + b^2) \end{aligned}$$

上の円錐台の体積の公式に

$$a = RR' = 2\sqrt{k}, \quad b = \frac{\sqrt{k}}{2}, \quad h = R'S' = \frac{2}{\sqrt{k}} - \frac{1}{2\sqrt{k}} = \frac{3}{2\sqrt{k}}$$

を代入すると

$$\frac{V_1}{\pi} = \frac{1}{3} \cdot \frac{3}{2\sqrt{k}} \left\{ (2\sqrt{k})^2 + 2\sqrt{k} \cdot \frac{\sqrt{k}}{2} + \left(\frac{\sqrt{k}}{2}\right)^2 \right\} = \frac{21}{8} \sqrt{k}$$



**2** (1)  $f(x) = x + \sqrt{x^2 + 1}$  を微分すると

$$f'(x) = 1 + \frac{x}{\sqrt{x^2 + 1}} = \frac{x + \sqrt{x^2 + 1}}{\sqrt{x^2 + 1}} = \frac{f(x)}{\sqrt{x^2 + 1}}$$

よって 
$$\frac{f'(x)}{f(x)} = \frac{1}{\sqrt{x^2 + 1}}$$

(2) (1) の結果を用いて

$$\begin{aligned} \int_1^{n+1} \frac{1}{\sqrt{x^2 + 1}} dx &= \int_1^{n+1} \frac{f'(x)}{f(x)} dx = \left[ \log f(x) \right]_1^{n+1} \\ &= \log f(n+1) - \log f(1) \\ &= \log(n+1 + \sqrt{n^2 + 2n + 2}) - \log(1 + \sqrt{2}) \end{aligned}$$

(3)  $k \leq x \leq k+1$  のとき,  $\frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}} \geq \frac{1}{\sqrt{x^2 + 1}}$  より

$$\frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}} = \int_k^{k+1} \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}} dx \geq \int_k^{k+1} \frac{1}{\sqrt{x^2 + 1}} dx$$

したがって

$$\sum_{k=1}^n \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}} \geq \sum_{k=1}^n \int_k^{k+1} \frac{1}{\sqrt{x^2 + 1}} dx = \int_1^{n+1} \frac{1}{\sqrt{x^2 + 1}} dx$$

上式および (2) の結果から

$$S_n \geq \log(n+1 + \sqrt{n^2 + 2n + 2}) - \log(1 + \sqrt{2})$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \log(n+1 + \sqrt{n^2 + 2n + 2}) = \infty \quad \text{よって} \quad \lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \infty$$

(4) 
$$S_{2n} - S_n = \sum_{k=1}^{2n} \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}} - \sum_{k=1}^n \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}} = \sum_{k=n+1}^{2n} \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}}$$

$$\begin{aligned} \sum_{k=n+1}^{2n} \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}} &\geq \sum_{k=n+1}^{2n} \int_k^{k+1} \frac{1}{\sqrt{x^2 + 1}} dx = \int_{n+1}^{2n+1} \frac{1}{\sqrt{x^2 + 1}} dx \\ &= \left[ \log f(x) \right]_{n+1}^{2n+1} = \log \frac{f(2n+1)}{f(n+1)}, \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \sum_{k=n+1}^{2n} \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}} &\leq \sum_{k=n+1}^{2n} \int_{k-1}^k \frac{1}{\sqrt{x^2 + 1}} dx = \int_n^{2n} \frac{1}{\sqrt{x^2 + 1}} dx \\ &= \left[ \log f(x) \right]_n^{2n} = \log \frac{f(2n)}{f(n)} \end{aligned}$$

したがって  $\log \frac{f(2n+1)}{f(n+1)} \leq S_{2n} - S_n \leq \log \frac{f(2n)}{f(n)}$

ここで

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{f(2n+1)}{f(n+1)} &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{2n+1 + \sqrt{4n^2 + 4n + 2}}{n+1 + \sqrt{n^2 + 2n + 2}} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{2 + \frac{1}{n} + \sqrt{4 + \frac{4}{n} + \frac{2}{n^2}}}{1 + \frac{1}{n} + \sqrt{1 + \frac{2}{n} + \frac{2}{n^2}}} = 2, \end{aligned}$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{f(2n)}{f(n)} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{2n + \sqrt{4n^2 + 1}}{n + \sqrt{n^2 + 1}} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{2 + \sqrt{4 + \frac{1}{n^2}}}{1 + \sqrt{1 + \frac{1}{n^2}}} = 2$$

はさみうちの原理により  $\lim_{n \rightarrow \infty} (S_{2n} - S_n) = \log 2$

別解  $S_{2n} - S_n = \sum_{k=1}^{2n} \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}} - \sum_{k=1}^n \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}} = \sum_{k=n+1}^{2n} \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}}$

自然数  $k$  について  $\frac{1}{k+1} < \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}} < \frac{1}{k}$

$$\begin{aligned} \sum_{k=n+1}^{2n} \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}} &< \sum_{k=n+1}^{2n} \frac{1}{k} \leq \sum_{k=n+1}^{2n} \int_{k-1}^k \frac{1}{x} dx \\ &= \int_n^{2n} \frac{1}{x} dx = \left[ \log x \right]_n^{2n} = \log 2, \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \sum_{k=n+1}^{2n} \frac{1}{\sqrt{k^2 + 1}} &> \sum_{k=n+1}^{2n} \frac{1}{k+1} \geq \sum_{k=n+1}^{2n} \int_{k+1}^{k+2} \frac{1}{x} dx \\ &= \int_{n+2}^{2n+2} \frac{1}{x} dx = \left[ \log x \right]_{n+2}^{2n+2} = \log \frac{2n+2}{n+2} \end{aligned}$$

したがって  $\lim_{n \rightarrow \infty} \log \frac{2n+2}{n+2} = \lim_{n \rightarrow \infty} \log \frac{2 + \frac{2}{n}}{1 + \frac{2}{n}} = \log 2$

上の諸式から、はさみうちの原理により  $\lim_{n \rightarrow \infty} (S_{2n} - S_n) = \log 2$  ■



$$(5) \frac{s-q}{r-p} = \frac{-(a+10) - (a+2)i}{a+3 - (a+5)i - (1+5i)} = \frac{-(a+10) - (a+2)i}{a+2 - (a+10)i} = -i$$

これが純虚数であるから、2直線 PR, QS は垂直である。 ■

- 4 (1) 箱 A から玉を 1 回取り出すとき、白玉である確率は  $\frac{2}{3}$

よって、3 回取り出すとき、白玉をちょうど 2 回取り出す確率は

$${}_3C_2 \left(\frac{2}{3}\right)^2 \left(1 - \frac{2}{3}\right) = \frac{4}{9}$$

- (2)  $P_1$  は箱 A から白玉，箱 B から黒玉を取り出す確率であるから

$$P_1 = \frac{2}{3} \times \frac{1}{3} = \frac{2}{9}$$

$P_2$  は箱 A，箱 B から同色の玉を取り出す確率であるから

$$P_2 = \left(\frac{2}{3}\right)^2 + \left(\frac{1}{3}\right)^2 = \frac{5}{9}$$

$P_3$  は箱 A から黒玉，箱 B から白玉を取り出す確率であるから

$$P_3 = \frac{1}{3} \times \frac{2}{3} = \frac{2}{9}$$

補足  $P_2 = 1 - (P_1 + P_3) = 1 - \left(\frac{2}{9} + \frac{2}{9}\right) = \frac{5}{9}$

- (3) 1 回目の試行後，箱 A の中身が白玉 3 個であるとき，箱 B の中身は白玉 1 個，黒玉 2 個である。さらに，2 回目の試行で箱 A から白玉，箱 B から黒玉を取り出す確率であるから

$$P_3 \times 1 \times \frac{2}{3} = \frac{4}{27}$$

- (4) 1 回目の試行後，箱 A の中身が白玉 1 個，黒玉 2 個であるとき，箱 B の中身は白玉 3 個である。さらに，2 回目の試行で箱 A から黒玉，箱 B から白玉を取り出す確率は

$$P_1 \times \frac{2}{3} \times 1 = \frac{4}{27}$$

1 回目，2 回目の試行後，ともに箱 A の中身が白玉 2 個，黒玉 1 個である確率は

$$P_2^2 = \frac{25}{81}$$

これと (3) の結果から，求める確率を  $P$  とすると  $P = \frac{4}{27} + \frac{4}{27} + \frac{25}{81} = \frac{49}{81}$

- (5) よって，求める条件つき確率は  $\frac{P_2^2}{P} = \frac{25}{81} \cdot \frac{81}{49} = \frac{25}{49}$  ■